


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立 南山城支援学校 】

1 実践テーマ	【Ⅲ・Ⅳ】
2 実施対象者	府内特別支援学校中学部・高等部生徒 151名 府内高等学校生徒 81名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ③その他(ボッチャ交流大会 高校生の交流会 スポーツと文化を楽しむ日) (2) 地域における活動(地域の小学校への広報活動) ②その他(いっしょに「ボッチャ」)
4 目標 (ねらい)	(1) 地域との交流及び共同学習を計画し、パラリンピック正式種目「ボッチャ」を取り入れ、共に競技することを通して「地域とのつながり」「人とのつながり」を広げ深めていく。 (2) 地域へ自分たち(生徒自身)が出向き、実演や交流等をとおして、つながりを深めるとともに、障害者スポーツの普及を目指す。
5 取組内容	(1) 交流や共同学習の場での「ボッチャ」の活用とパラリンピック(卓球)京都代表者による講演と指導 <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <p>①平成29年7月1日(土) 府内支援学校の中学部・高等部生徒を中心に、本校を会場として「ボッチャ交流大会」を行った。</p> <p>②平成29年11月11日(土) 校区内の高等学校に呼びかけをし、高校生の交流会を行い、その交流の場で「ボッチャ」を行った。</p> <p>③平成29年11月～(平成30年1月22日(月)実施) 本校で設定している「スポーツと文化を楽しむ日」に関わって、パラリンピックを目指す選手を招き、講習会等を行い、生涯スポーツの楽しみ等について実践も交えた話をうかがった。</p> </div> </div> <p>(2) 地域への普及 ①平成30年1月26日 地域の小学校の支援学級に出向き、少しルールをわかりやすくしながら、「ボッチャ」の楽しさの普及を行った。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="flex: 1;">  </div> </div>
6 主な成果	(1) ボッチャ交流大会、高校生の交流会について、スポーツと文化を楽しむ日 交流大会は、50人以上の支援学校生徒が参加した。各学校での練習等を発揮する場になり、生徒同士が「ボッチャ」とおして、切磋琢磨する様子が見られた。交流会では、「ボッチャ」はルール等がわかりやすいため、高校生にとっては取り組みやすいスポーツであり、

	<p>それに加えてチーム対戦でもあるため、地域の高校生と本校の生徒が同じチームになることで、コミュニケーションの場にもなった。同じチームになった生徒達同士が力を合わせて、「ボッチャ」というスポーツを通して交流を深めることができた。</p> <p>障害者アスリート（卓球）を招き、日頃のプロとして取り組む姿勢等の話をうかがったり、実際に卓球での交流をしていただいたりすることで、刺激にもなり、生涯スポーツへの関心にもつなげることができた。</p> <p>（２）地域への普及について 他の人に何かを教えるということは大変難しいことではあるが、「ボッチャ」の交流を通して生徒が児童にルールややり方を教えることは大変貴重な体験につながった。また、「ボッチャ」について児童にも知ってもらう機会にもなった。</p> 
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>（１）「ボッチャ交流大会、高校生の交流会、スポーツと文化を楽しむ日」について 「ボッチャ」に関しては特別支援学校ではかなり普及してきているが、地域の学校等ではまだまだ十分ではないと思われる。特別支援学校でも道具の数が足りない場合もあり、事前に希望される団体等には「ボッチャ」の道具の貸し出しを行った。</p> <p>（２）地域への普及について 児童への普及ということも考え、導入部分ではルールを少しわかりやすくし、親しみやすい形で行った。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>（１）ボッチャ交流大会、高校生の交流会、スポーツと文化を楽しむ日について 参加生徒が身体的にも障害のある生徒が参加することを考えると、特別支援学校を会場（保健室の設備面、看護師の参加等）にせざるを得ない。そうすると多くの参加を呼びかけながら、環境面（支援学校の体育館の広さ等）で対応できないことがある。</p> <p>（２）地域への普及について 年間行事の中で、小学部と小学校の交流学習は計画をしているが、高等部の生徒が訪問していく形はどうしてもイベント的な交流になってしまう。もっと日常的に地域の中で交流できる場を考え、そこで様々なスポーツ等を交流できるようになれば、本当の意味での普及につながるように思われる。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>（１）ボッチャ交流大会について 昨年度に引き続き開催したこともあり、多くの支援学校から参加をしていただいた。今後も、この取組を継続していくことを考えている。ただ、今年度以上の参加人数が予想される場合は、参加可能対象生徒を少し制限していくことも考えなければならない。</p> <p>（２）地域への普及について 前回のパラリンピックをとおして、多くの方に「ボッチャ」を知っていただけたところはあるが、高価な道具が必要なこともありまだまだ知らない児童生徒は多いと思われる。道具の貸し出しの継続もちろんではあるが、出前授業のような取組を続けていく必要がある。</p>